

# 研究 だより

---

## vol.4

未来の京都創造研究事業は、  
「大学のまち京都」の『知』の集積を、京都の未来にとって  
よいことに活かそうという思いから始まった事業で、  
大学の研究者と京都市の担当部署との協力により、  
未来の京都づくりに向けた政策を創造するための  
調査・研究を行っていただいています。

今回の研究だよりでは、vol.3に引き続き、今年度  
に採択している3件の研究テーマについて、研究に携わ  
る方々からお話を伺いましたので、紹介いたします。

### 自由課題

#### 京都市郊外の市営住宅とその周辺住宅地に おける空間構成と変遷について

京都工芸繊維大学 博士後期課程 政木 哲也さん  
(担当部署 すまいまちづくり課)

#### 研究者の プロフィール

私は子供時代を  
ニュータウンで過ご  
したせいか、今後  
郊外住宅地がどうな  
るのか、ものすごく興味があります。



政木さん

大学卒業後に一度地元を離れ、再び  
学生として改めて自分の育った街を振  
り返ったとき、最も住みたいと思った  
環境は駅前の古い団地にありました。

この研究をきっかけに、古いけれ  
ども成熟した団地空間の持つ魅力を  
多くの方と共有できるようがんばり  
ます。

#### 研究の概要

山科区と伏見区東部の郊外住宅地にあるいくつかの市営住宅団地を訪ね、敷地周囲の塀や外構の測量や建物外観の記録により、市営住宅が周辺の住宅地に対して、①空間的にどのように連続しているか、②運用的にどれくらい開放されているか、を分析しています。

また、行政資料から分かる建設当時の状況と現状の違いを調べることにより、その団地空間が長い時間をかけてどのように変化してきたのかを探ります。

これらの手法によって、それぞれの団地の持つ空間的な性質を比較し、その街が持つ雰囲気＝地域性の要因を抽出します。

#### 研究の進ちょく状況

「市営住宅のオープンスペースを街の資産に」

かつて京都市の人口が急激に増えた時期に、住宅供給のため郊外では大規模な住宅地が開発され、市営住宅をはじめとする公的な賃貸住宅もたくさん建設されました。現在これらの多くが築30年を超え、建物の老朽化が問題視され、団地の居住世帯の高齢化も大きな課題となっています。これを受けて京都市では効率的な住戸の集約化や、建物設備の更新が検討されています。



団地と周辺住宅地の境界

それでは団地内の広場や樹木によって長い時間かけて作られた街のたたずまいは今後どうなるのでしょ



団地内のベンチ

うか。これからの住宅地では、地域コミュニティの役割がますます重要となってくるでしょう。市営住宅ののびのびとしたオープンスペースはこうした活動の受け皿となるのに最適です。現状の分析をふまえながら、街の記憶を継承し、周辺と心地よくつながるような、市営住宅のオープンスペースの今後のありかたを提案できればと思います。

**指定課題**

**交流の場づくりによる商業者・市民の育成と  
ネットワーク形成にかかわる実証研究**

京都工芸繊維大学 西村 雅信 准教授  
(担当部署 商業振興課、中京区役所地域力推進室)



（2014年10月）  
フューチャーセッションの様子

**研究の概要**

都心部の商業者を中心に、まちづくりに関心の高い生活者やクリエイターが交流する場づくりを通して「地域の価値」の再発見と創造を推進するネットワーク形成や、事業企画を図るプロセスをデザインする実証研究です。「時間」「空間」「参加」のデザインの視点から、交流の場「フューチャーセッション『茶論案庵』(サロンあんあん)」を社会実験として開催し、有効性の検証と持続可能なモデルを検討しています。

初めて未来茶室が登場（2014年8月）



**研究の進ちょく状況**

社会実験として次の3タイプの交流・対話の場づくり「交わる。起こす。フューチャーセッション」を実施し、有効性の検証と持続可能なモデルを検討しています。

- ① 商業者・事業者と市民が交わり、つながる「学び」と「ネットワーク形成」の場。(2014年11月、中京マチビト Café 学びと共鳴編「マチビト×京まちなかの商い」として、新風館にて中京区役所と共同開催)
- ② 作り手と売り手・支え手の創発とネットワークづくりの場(茶論案庵ミーティング、2015年2月開催)
- ③ 関心のあるテーマに未来のステークホルダー(商業者、生活者、専門家等)が集って、交わり、起こす「文化創造」と「コミュニティ形成」の場(「買い物したい、食べたい、観たい。しかし・・・育児中のお母さんをハッピーに!」2015年2月、誓願寺にて開催)

加えて、これらの三つの「交流・対話の場づくり」のありかたを議論し企画する企てる。育てる。フューチャーセッション」を実施し(2014年8月、10月、2015年3月開催)、当事者が自立的かつ継続的に事業展開を行うマネジメント組織の形成を試みています。

さらには「交流・対話の場」が持続的に問題解決と未来創造を企画する場として有効に機能するために、「交流・対話の場」のブランディング、空間と装置(組立式未来茶室)のデザインに取り組んでいます。



「マチビト×京まちなかの商い」  
(2014年11月)  
ステージ上に未来茶室

**研究に携わっているみなさん**

デザインとまちづくりに関わる研究者、実務者が集まりました。昨年度、文部科学省の「大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業」においてイノベーションを生み出す創造的な対話の場づくりに取り組んだ京都工芸繊維大学のKITフューチャーデザインプロジェクトのメンバーを中心に、チームを結成しました。



左から、京都市まちづくりアドバイザー 深川光耀さん、同志社大学 谷口知弘客員教授、京都工芸繊維大学 西村雅信准教授、多田羅景太助教、行場吉成教授

**指定課題**

**マイナンバー制度の導入に伴う個人情報の保護、  
管理、利用及び活用のあり方に関する研究**

同志社大学 佐伯 彰洋 教授  
(協力 京都市職員法務研究会、担当部署 情報化推進室)

**研究者の  
プロフィール**

市民を幸せにするためのシステムを考えたいという理由から、行政法の研究・教育をしています。特に情報公開制度に関心を持ち、研究してきましたが、情報公開と車の両輪といわれる個人情報保護も関心の対象になっています。

いま取り組んでいるマイナンバー制度の研究でも、この制度をいかに活用すれば、市民の幸せに資するものとなるか、考えている毎日です。



佐伯教授

**研究の概要**

2015年から始まるマイナンバー制度は、住民票を有するすべての方に1人一つの番号を付けて、社会保障、税、災害対策の分野で効率的に情報を管理し、複数の機関に存在する個人の情報が同一人の情報であることを確認するために活用されるもので、地方公共団体が創意工夫して独自に条例を制定することにより、充実したものとなる可能性があります。本研究は、制度の本格始動に先立ち、その可能性に光を当てようとするものです。

京都市における地域の実情を踏まえ、市民の福祉を向上させるため、マイナンバー制度にはどのような使い途があるか、また、その使い途に応じてどのような条例を定めればよいかといったことを中心に、個人情報の保護を疎かにしないための仕組みと併せて、研究しています。

**研究の進ちょく状況**

私たち1人ひとりに何らかの番号を振る仕組みは、マイナンバー制度以前にもありました。いわゆる住民票コードもそうです。かつて住民基本台帳のネットワーク化を図るシステムが導入されたとき、この住民票コードを利用して情報管理することには反対もありました。最高裁判所は一定の条件を付け、住基ネット制度を辛くも是としましたが、この経験からマイナンバー制度はかなり手堅く設計されています。この制度が「小さく生まれた」といわれるゆえんです。研究ではその慎重なつくりで縛られて悩むこともありますが、この制度を大きく、かつ健やかに育てていくため、将来の法改正に向けて提言することも視野に入れて、試行錯誤しています。

研究は、京都市の職員からなる「京都市職員法務研究会」と協力しながら進めています。現場を知る職員の視点

を入れた具体的な提言を行うことにより、市民サービスのさらなる向上と行政の効率化に寄与するとともに、マイナンバー制度の活用に関して他都市をリードしていく京都市の積極的な姿勢を示し、さらに各地の自治体が独自のアイデアを競い、番号法を活用する契機となればと思っています。



京都市職員法務研究会のみなさんとの議論の様子。左端が佐伯教授

**プロジェクト・マネージャー (水田 哲生) のつぶやき:**

1年という時間が経つって早いなあと感じつつ、4回目の年度末を迎えることとなりました。4年というオリンピックを思い浮かべる人が多いと思います。オリンピックに出場したい選手ならば専門的に一つの種目を究めて次の4年後に、でしよ、私たちの事業は毎年毎年いろいろな研究テーマにおける挑戦です。

これまで多くの参加と協力をいただき、その積み重ねで進めてきました。研究者の皆さま、アンケートやヒアリング等の現地調査に協力いただいた市民・団体の皆さま、京都市役所の職員の皆さま、本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願ひします。我々の歩みは止めませんので、むしろ、もっとご参加ください。さて、東京オリンピックのころ、京都市はどうなっているかな？



# 未来の 京都創造 研究事業

## 平成 26 年度 成果報告会・交流会

参加無料!

このたび、平成26年度に行った6件の調査・研究テーマの成果を広く発信するとともに、大学や研究室の枠を超えた研究者同士の交流や研究者と市民、学生、行政職員等の交流を図るため、成果報告会・交流会を開催します。

ふるってご参加ください!

平成 27 年 3 月 17 日 (火) 17 時 ~ 21 時  
キャンパスプラザ京都 [京都駅徒歩 5 分]

成果報告会	4 階第 3 講義室	(17 時 ~ 20 時)
交流会	2 階第 2・第 3 会議室	(20 時 ~ 21 時)
U R L	<a href="http://www.consortium.or.jp/seisaku/7893">http://www.consortium.or.jp/seisaku/7893</a>	



成果報告会は  
事前申込不要です。  
交流会に参加される方は  
3月12日(木)までに  
このページ右下の連絡先  
まで E-mail または電話  
でお申し込みください。

研究だより vol.4 に掲載した 3 件の研究以外に、以下の 3 件の研究の成果も報告されます。

### 指定課題

**外国人留学生の大学卒業後の  
就業に関する動向の分析と  
自治体、企業及び大学におけ  
る支援方策に関する研究**  
立命館大学政策科学部  
石原 一彦 教授

京都の大学、現在と過去の留学生、企業へのアンケートやヒアリング、京都企業と留学生の交流の場などを通して、外国人留学生が日本企業に就職して活躍するためには何が必要か、どのような能力開発プログラムが必要かなどを研究しています。



### 自由課題

**京都市における「フューチャー  
センター」を活用した次世代型  
市民協働政策についての研究**  
京都府立大学公共政策学部  
杉岡 秀紀 講師

フューチャーセンターとは、組織を超えて未来志向で対話をし、そこから生まれたアイデアを実際の形にしていく手法のことを指します。本研究ではそのフューチャーセンターを活用した京都市における次世代型市民協働政策について提言を行います。



### 継続課題

**京都市内における住宅庭の環  
境及びその減少が街区の生物  
相に与える影響**  
京都大学大学院地球環境学堂  
柴田 昌三 教授

市街地において現在も比較的多くの町家が残存する地域では、町家を含む住宅の庭が緑の約4割を占めることがわかっています。今年度は、身近な緑地として「京町家の庭」に焦点を当て、京町家の庭が生き物の生息地としてどのように機能しているかを考察しています。



### 編集後記

前号に引き続き今年度に調査・研究を実施されている3テーマを紹介しました。本当に多様な6テーマのマネジメントを担当していると、大変だと感じる反面、まったく新しい挑戦というワクワク感も同時にあります。それもあわずか、です。

この成果報告会では各研究グループが精力的に取り組んだ成果が発表されます。交流会と合わせて、お気軽にお越しください!

公益財団法人  
大学コンソーシアム京都  
シンクタンク事業担当 水田、矢野

E-mail [mirainokyoto@consortium.or.jp](mailto:mirainokyoto@consortium.or.jp)  
電話 075-708-5803  
URL <http://www.consortium.or.jp/project/seisaku/think-tank>

